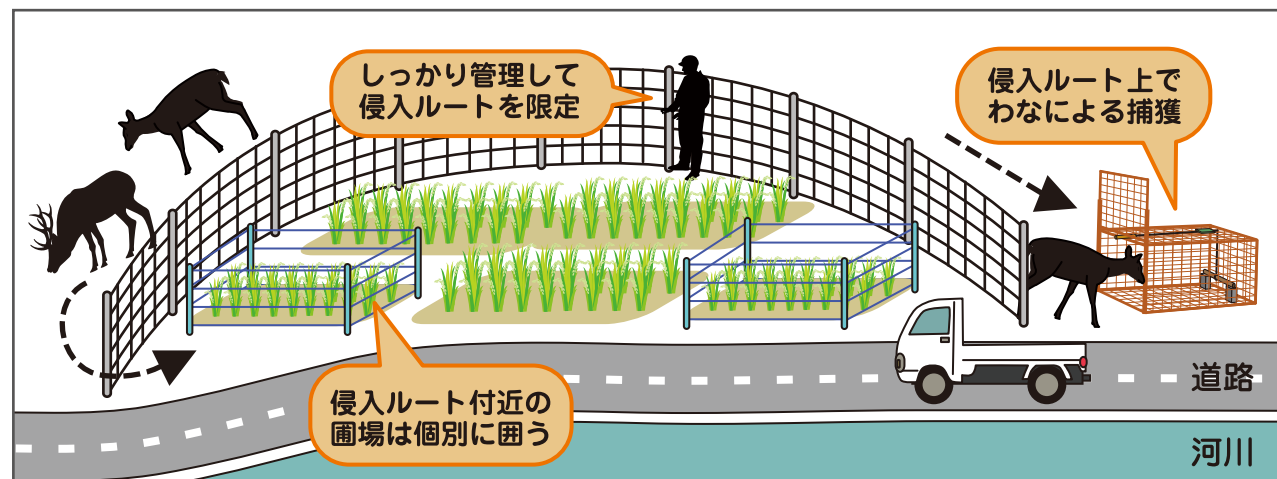


3. 道路や河川からの侵入に対して ルートを限定して「捕獲」「個別柵」

道路や河川のような封鎖できない場所からの侵入を防止する技術は、まだ確立されていません。しかし、柵をしっかりと管理すれば、シカやイノシシの侵入ルートを限定できます。絞られたルートに捕獲檻を設置したり、付近の田畑を個別に囲うなど、対策を組み合わせることで対処しましょう。

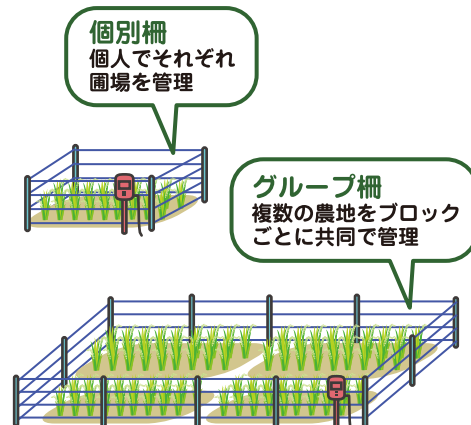


「集落防護柵」が難しい場合は… 農地の周囲に設置する「個別柵」や「グループ柵」で対応！

集落の条件によっては「個別柵」や「グループ柵」を設置した方がよい場合があります。設置前に十分検討しましょう。

	守れる範囲	労力・経費	集落条件の目安
集落防護柵	◎	△ (条件により異なる)	- 補助金が活用できる - 受益者負担額が許容できる範囲 - 集落全体のまとまりがよい - 設置後の維持管理に対して集落全体の合意がとれる…など
個別柵	△	○	- 地形が複雑 - 非農家率が高いなど受益者負担が大きい - 道路や河川など封鎖できない所が多い - 設置後の維持管理に不安がある - 積雪が多く冬期は柵の撤去が必要…など
グループ柵	○	◎	

グループで設置すると、柵の総延長を短くできたり、電牧器を共有できるので、経費が安くなります。



ご相談ください



柵を設置しても効果があらわれない方



これから柵の設置を考えている方

柵の点検方法や他の集落の優良事例などを紹介します



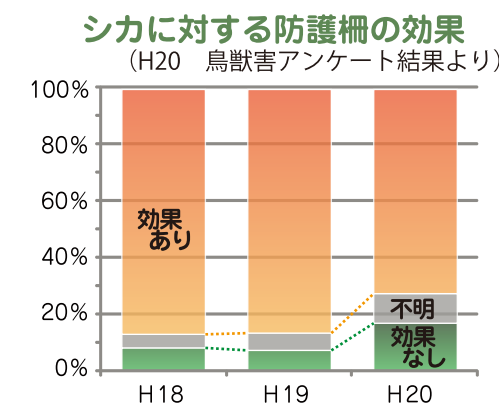
「集落防護柵」を用いた シカ・イノシシの被害対策



防護柵は大変効果のある被害対策の一つですが、設置方法や点検が適切でないと、効果がなくなります。とくに「集落防護柵」は、広範囲を守れるという良い点がありますが、設置後の維持管理に多くの労力が必要です。「集落防護柵」の特徴や課題をよく理解し、効果的な活用方法を検討しましょう。

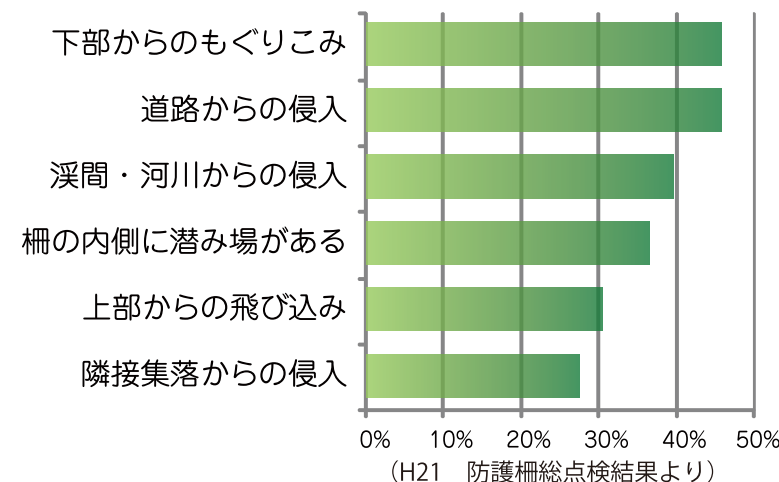
集落防護柵の効果

防護柵を設置している集落にアンケート調査を行った結果、多くの集落で効果があることがわかりました。ただし、効果がないという回答が年々増える傾向にあります。



効果が持続しない原因

「効果がない」という回答のあった集落で、柵の調査を行ったところ次のような原因が明らかになりました。



柵の下部にあいた穴



シカがもぐりこんでいる様子



水路があるため隙間ができた柵



倒木のため破損した柵

これらの原因を少なくするため、このパンフレットでは、次の3点について解説します。

1. 「設置前」の注意：ルート設計や施工方法 ▶ 2ページ
2. 「設置後」の注意：定期点検・補修が不可欠 ▶ 3ページ
3. 道路や河川からの侵入に対して ▶ 4ページ

1. 「設置前」の注意：ルート設計や施工方法

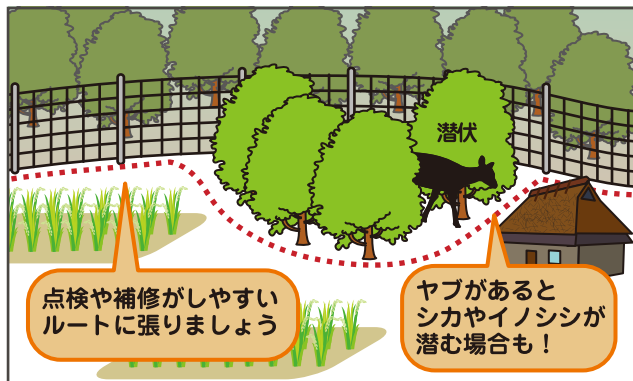
シカ・イノシシの侵入原因をよく理解したうえで

- ① 設置後に定期点検を行いやすいように、
 - ② 侵入されやすい箇所をつくらないように、
- 設置ルートや施工方法を検討することが重要です。



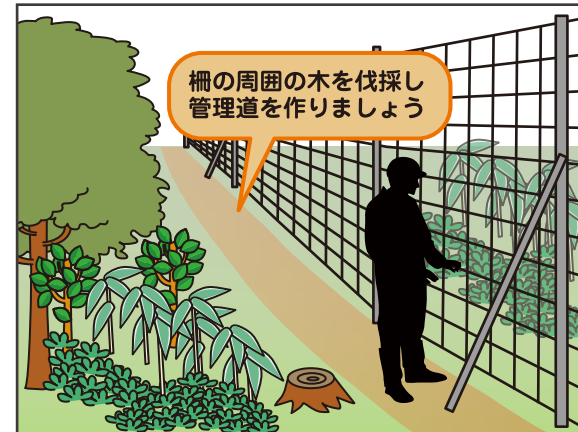
設置後、管理しやすいように考えましょう

ポイント できるだけ山すそに設置



設置後の定期点検のため、歩きやすいルートに柵を張ることが重要です。また、柵の集落側に林やヤブが残っていると、動物が潜んでしまう場合も多くあります。柵の点検も大変になりますので、注意しましょう。

ポイント 山では管理道を確保



やむを得ず、山の中に柵を通すときは、定期点検のための管理道を作るようにしましょう。倒木対策のために、周囲の木を伐採している集落もあります。

侵入されやすい箇所をつくらないように

ポイント 傾斜地では注意



傾斜地に設置すると、シカに飛び越えられやすい高さになってしまう場合があります。できるだけ平坦なところに、柵を設置しましょう。

ポイント 隙間を残さない



「このぐらいなら大丈夫」と油断せずに、隙間なく設置しましょう。とくに柵の切れ目や門扉の下などは注意が必要です。

2. 「設置後」の注意：定期点検・補修が不可欠

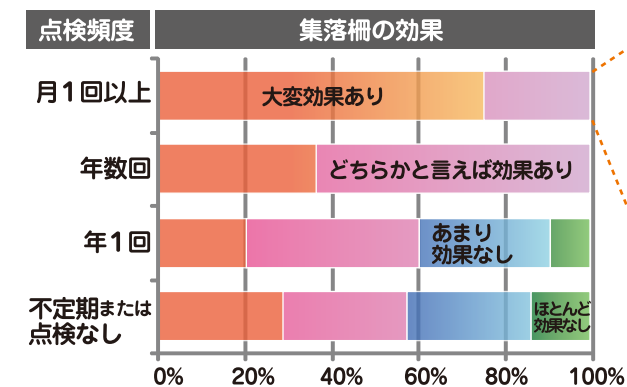
防護柵は野外で長期間放置されるため、必ず野生動物の侵入経路ができてしまいます。設置した後は、集落で定期点検を継続的に実施する体制づくりが必要です。

点検・補修をしっかりとっている集落では効果大！

点検体制

集落でよく話し合い、継続できる体制づくりを目指しましょう。

集落柵の点検頻度と効果の関係
(H21 防護柵総点検結果より)



「効果あり」集落での点検体制の例

- A集落** ・農会役員で月1回の点検
・農会全員で年1回の総点検、ヤブの刈り払い
- B集落** ・受益者全員で2週間に1回の点検(当番制)
- C集落** ・集落総出(非農家も含めた)月1回の点検

補修の事例



簡易な補修道具と資材を携帯して点検に行きます。隙間を見つけた場合はすぐに対応し、必要であれば、後で強固な資材でしっかり補強します。



シカが飛び込みやすい斜面の金網柵は、のり網や針金でかさ上げをして補強します。



間伐材を踏切場所や着地点におくと、侵入防止効果が高くなります。



柵に番号を付けて、補修が必要な箇所を連絡しやすくしましょう。